

なかなか受胎しない牛（長期不受胎牛）に悩まされた経験はないでしょうか。

牧場における長期不受胎牛の存在は、生産性の低下や経済的損失を招くこととなります。

長期不受胎の原因としては、子宮や卵巣の問題、栄養状態の問題など、さまざまなことが考えられます。長期不受胎牛に対しては、シダー（腔内留置型黄体ホルモン製剤）などを用いた排卵同期化や、追い移植、子宮内への薬液注入などにより、繁殖成績の改善が試みられています。

今回は、長期不受胎牛に子宮洗浄を実施し、その後の繁殖成績についての調査結果を紹介します。

○調査内容

日高管内の一地区において、胚移植（ET）を実施しているF1繁殖牛で、分娩後100日以上経過しても不受胎だった66頭に子宮洗浄を実施しました。そして、同地区において分娩後100日以上経過しても子宮洗浄を実施しなかった牛（無処置群）との繁殖成績を比較しました。

○結果

子宮洗浄後、47頭（71%）が受胎しました。そのうち31頭（66%）は、洗浄後1回目のETで受胎しました。

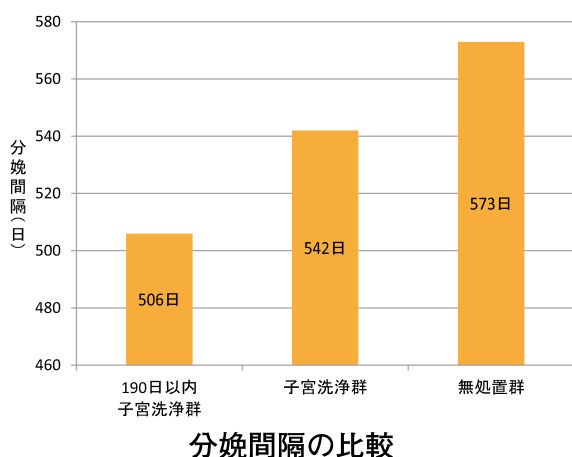
子宮洗浄を実施した牛群の分娩間隔は542日、受胎までの総移植回数は4・0回でした。無処置群の分娩間隔は573日。総移植回数は4・8回でした。比較する

と、子宮洗浄を実施した牛では、無処置の牛よりも分娩間隔が約1か月、総移植回数は約1回分減少したことが分かりました。

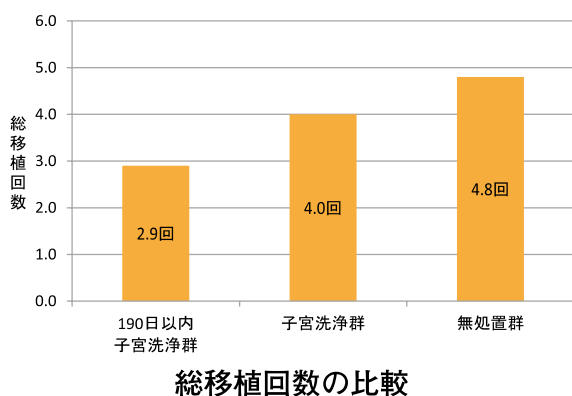
また、分娩後190日以内で子宮洗浄を実施した牛群では、分娩間隔が506日、総移植回数が2・9回となり、繁殖成績がさらに改善されたことが分かりました。

以上より、子宮洗浄は長期不受胎牛の繁殖成績改善に有効であると考えられます。子宮洗浄は、処置にやや時間がかかる（30分〜1時間程度）ことから避けられがちですが、繁殖成績改善に有効な手段の一つとして、ぜひ試してみたいと思います。

（獣医師・高杉真綾）



分娩間隔の比較



総移植回数の比較